

外国人の人権

最近、スポーツの日本代表戦などで、多様なルーツを持つ選手たちが活躍する姿を、当たり前のように目にするようになりました。これは、オリンピックなどが採用する国籍主義ではなく、3年以上継続して日本に居住しているなど一定条件をクリアすれば、日本国籍が無くても日本代表としてプレーが可能なことからです。

彼らの躍動は、背景が違えど「同じ目標に向かう仲間」であることを私たちに再認識させてくれます。

身近な地域でも外国の方と接する機会があると思います。その時、私たちは「一人の人間」として敬意を持って接しているでしょうか。

最近では、見た目だけで判断せず、その人の背景にある文化を尊重する「文化的寛容性」の重要性が叫ばれています。

～令和8年度「人権を学ぶ会」について～

令和8年度「人権を学ぶ会」の学習テーマは、外国人の人権に決定しました。文化や習慣の違いを「壁」ではなく、社会を豊かにする「多様性」として受け入れ、歩み寄る。

人との違いを認め、心豊かに暮らせる地域は、外国人だけでなく、私たちにとっても暮らしやすい地域です。

「人権を学ぶ会」をとおして、自分も相手も尊重し、誰もが自分らしく生きられる社会をめざしましょう。